

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 9月 8日

【評価実施概要】

事業所番号	0173501214		
法人名	有限会社 ドリーム建工		
事業所名	グループホームやちよ		
所在地	室蘭市大沢町2丁目26番15号 (電話) 0143-41-7200		
評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	平成21年9月2日	評価確定日	平成21年9月15日

【情報提供票より】 (21年 8月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 (平成) 16年 10月 15日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	23 人	常勤	21人、 非常勤 2人、 常勤換算 22人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	光熱費: 月額15,000円 暖房費:(11-4月)1日100円	
敷金	(有)(45,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (8月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	4 名	要介護2	6 名		
要介護3	7 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	77 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	新日鐵総合病院、恵愛病院、とんけし耳鼻咽喉科クリニック、ふじかね内科、福田歯科、黒田歯科医院
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「グループホームやちよ」は緑豊かな、閑静な住宅地に位置し、広い敷地に同一法人の小規模多機能型サービス事業所、高齢者向け専用住宅と併設して、それぞれの特徴を活かした連携をしている。利用者の主体性を尊重し、職員はあくまでも援助者としての役割に徹し、利用者の必要性や希望に沿うことに介護の重点を置いている。また、薬に頼らず、心のケアで精神的な安定を得ること、家族の不安に配慮し、家族から信頼の得られる運営をモットーにしている。近隣の小学校や保育園との交流が盛んで相互に訪問しあい、ホームの行事に近隣住民を招いて交流するなど、地域交流は盛んである。運営推進会議、市との連携、職員教育などいづれをとっても、強い向上の意欲が感じられる。

【重点項目への取組状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価では災害対策で夜間想定訓練を課題に取り上げていたが、今年自主訓練で既に行っており、来月、消防署の参加で本格実施の予定である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 会議で全職員に自己・外部の評価の意義を伝え、アウトカムは全職員が記入した。取り組み項目については各職員の意見を聞きながらユニットのリーダーが記入し、最終的に管理者がまとめる形で作成した。評価の中から課題を見出し、改善・向上に役立っている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は地域の同業6施設が合同で開催し、テーブルを分ける形で行うため、着実で内容の濃いものとなっている。利用者の生活状況、行事、事故、避難訓練、自己・外部評価などを議題として、地域包括支援センター、市の職員および5～10名の家族が参加して、隔月、定期的に開催されている。不参加の家族には議事録を渡し、個別に説明するなどして周知を図っている。議論は活発であり、多くが運営に反映されている。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の来訪時には十分な面談の時間をとり、具体的に問いかけるなどして、要望や意見を気軽に言える雰囲気作りに努めている。運営推進会議で出される意見もその一環ととらえ、出された意見には誠実に対応すると同時に、ユニット会議で話し合い、改善に反映させている。家族会議を発足させており、そこでさらに率直な意見を汲み上げる意向である。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会は内部の事情が複雑なため、加入するには至っていないが、近隣の小学校、保育園とは盛んに交流しており、運動会、学習発表会、よさこいソーラン踊りなどで訪問したり来訪を受けたりしている。また、ホームの行事に近隣住民を招いて交流し、開かれたホーム作りを積極的に目指している。避難訓練にも近隣住民の協力・参加を得ている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	創設の時、創業者が、「生きる喜びを与えてくれたあなたにありがとう」「心と心の繋がりを大切に」との表題の下に、さらに詳細な運営理念を掲げ、後に「地域の方との共生」を加えて現在の運営理念となっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	施設案内のパンフレットに掲載すると同時に、ホーム内の要所に掲示して周知を図っている。新入職員の採用時には理念の説明をし、1年後に再度確認している。日常業務の中で理念の反映に努め、現場の指導や会議の時に確認・点検を行っている。	○	職員への理念の浸透をさらに進め、職員同士で確認し、指導し合えるような状況を作りたいとの意向なので、その取り組みに期待したい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会には会の事情で加入できていないが、近隣の小学校、保育園とは盛んに交流しており、運動会、学習発表会、よさこいソーラン踊りなどで訪問したり来訪を受けたりしている。また、ホームの行事に近隣住民を招いて交流し、避難訓練にも近隣住民の協力・参加を得ている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	会議で全職員に評価の意義を説明し、自己評価は各職員の意見を聞きながらユニットのリーダーが記入し、最終的に管理者がまとめる形で作成した。評価の中から課題を見出し、改善・向上に役立てている。理念や衛生管理など、外部評価から活かされた改善も多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は地域の同業6施設が合同で開催し、テーブルを分ける形で行うため、着実に内容の濃いものとなっている。利用者の生活状況、行事、事故、避難訓練、自己・外部評価などを議題として、議論は活発であり、多くが運営に反映されている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市からの要請には積極的に協力し、介護保険認定調査業務、キャラバンメイトや「見守り隊（お年寄り訪問）」への登録、講演の依頼などに応じている。市の職員とは、ホームの運営や困難事例の扱いなどで率直に相談し、助言を得られる親密な間柄となっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族が来訪した折には利用者の生活ぶりを詳しく伝えている。受診があった時はその都度伝え、異変があった時はすぐ連絡して家族と相談しながら対処している。毎月、代表者、管理者、担当職員がそれぞれの利用者別に日ごろの様子を伝える手紙を送っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には十分な面談の時間をとり、運営推進会議で出される意見もその一環ととらえ、出された意見には誠実に対応すると同時に、ユニット会議で話し合い、改善に反映させている。家族会議を発足させており、そこでさらに率直な意見を汲み上げる意向である。	○	家族の信頼を得るためになお一層の努力を重ねるとともに、その一環として家族会を発足させたとのことなので、その成果に期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	両ユニット間で職員、利用者それぞれが馴染みの関係になるような交流に努め、ユニット間の人事異動による利用者の戸惑いを防ぐように計らっている。若干の退職や新入があっても、残りの職員がチームとなってカバーし、ダメージを防ぐ努力をしている。	○	家族の中には職員の退職に関して情報を公開して欲しいとの要望もあり、家族会と検討するなどの対策を期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が1年間の自己目標を設定し、3ヶ月ごとに管理者と面談しながら達成状況を評価する形で職員の自己研鑽を推進している。各種の外部研修の情報を提供して職員の受講を推奨し、重要なものについては年間6人ぐらい、業務派遣をしている。また、ユニット会議で隔月介護長のレクチャーで学習している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	胆振管内のグループホーム広域連合及び室蘭市内の同業者による組織的な連携体制があり、各種の定期的な研修が行われており、管理者だけでなく、一般職員レベルでも研修や交流の機会が設けられている。また、市内グループホームのケアマネジャーによる連絡会も発足の運びとなっている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知症の人が納得することの難しさを踏まえた上で、事前に本人、家族の見学を求め、ケアマネジャー、管理者が自宅やデイサービスセンターを訪問して様子を観察し、情報を得て、入居に備えている。利用開始当初は職員の手厚い対応で、不安を抱かないような配慮が尽くされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	本人の出来ることを最大限尊重する基本姿勢に立ち、出来ることを見極めた上で、身繕いを任せ、施設内の家事、装飾などの仕事を分担している。また、職員は利用者が人生の先輩であることを深く認識し、家事作業から人生の教訓にいたるまで、多くを学んで、感謝の気持を表している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりや受診、入浴、散歩などの場面で、ゆっくり話をする時間をとり、本人の思いの把握に努めている。意思疎通の困難な利用者との多様なコミュニケーションについても、日々研鑽に努めている。本人にとって何が最良なのか、家族とも話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者の日々の「生活日誌」記録を基に、職員全員の意見と家族の想い、本人の「したい事」「困った事」などを聞き、計画作成担当者が中心となり基本の介護計画を作成している。作成した介護計画は、家族に説明して確認を行い、署名、捺印を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎定期的に利用者の状況を見直し、介護計画を作成している。入院による身体レベルの低下や、食事状態の変化、精神的な変化、排泄関係の変化などにより随時見直しを行い、利用者の現状に即した介護計画を常に作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域住民や利用者の親戚などからの介護相談に応じ、利用待機している人には毎月電話連絡を入れて状況を把握するなどの対応も行っている。かかりつけ医への受診、希望する外出先への送迎の支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人の希望により、かかりつけ医の継続受診は可能になっている。特に希望がない時は、協力病院の説明をして利用者と家族に選択してもらうようにしている。受診は、利用者の状態を把握している職員が同行し、結果を家族に報告している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や、看取りに関しての指針を、利用開始時に家族と利用者に説明をして、状況に応じて確認を取り交わす事を説明している。H18年以降に利用開始した利用者には、説明後に署名、捺印を得ている。職員は看取りに関する勉強会に参加し、要望があれば看取りを行う予定である。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	面会や電話の取り次ぎは、家族に了解を得た者のみとしている。日々のケアでは、否定的な言葉や、命令調の言葉は使わないように注意し、排泄時の声かけや、着替えの時なども利用者の誇りや、プライバシーに配慮している。書類の保管管理も適切である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切にして、食事時間や睡眠時間、外出なども利用者に応じた対応をしている。夜遅くに食べたいと言う利用者には、おにぎりやカステラ、牛乳などを提供する事もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は、夜勤者が食材の在庫を確認して翌日の分を考えている。利用者の食べたい物を選んでもらう事で好みを把握する事ができるので、週2回程利用者と共に食材を買いに出かけている。利用者が嫌いな献立は、同じ食材で献立を変更するなど、楽しく食事ができるような工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間は、毎日午後の1時から4時頃までであるが、希望により午前入浴も可能になっている。最低週2回以上を目標に、利用者の希望に沿って入浴日を決めている。入浴拒否者に対しては声かけて工夫したり、拒否が強い時は清拭などで清潔面に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除や洗濯、日めくりをめくる、ラジオ体操の音楽をかけるなど、利用者に応じて役割を持って生活している。利用者は、好きなカラオケや絵画展、ドライブ、戸外での食事、水族館見学などを楽しんでいる。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候に応じて毎日散歩したり、日に何度も散歩するなど、それぞれの利用者の意思で、季節にとらわれる事なく自由に戸外に出かけている。歩行が困難な利用者は、冬季は定期的な受診や温泉、家族との外泊などで戸外に出る機会を得ている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者が自由に外出できるように日中は施錠せず、玄関にチャイムを設置し安全面に配慮している。利用者が外出した時は、職員間で声をかけ合い、連携を取りながら、利用者に応じて一緒に外出したり見守ったりして安全面に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、避難訓練を行うと共に、新しい職員の入社時や、消防署との訓練の前に夜間を想定した自主訓練などが計画的に行われている。防災避難マニュアルや連絡網も整備されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事と水分の摂取量は毎日全員記録している。摂取量の少ない利用者については、申し送りで報告し職員間で情報を共有している。グループホーム連絡会が室蘭市に委託し、年1回、1週間分の献立について、市の管理栄養士から指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間に面した窓からは花壇や畑、桜の木を見る事ができ、季節感を常に感じる事ができる。広々とした居間と対面式の台所、窓や扉を取り付けていないオープンな事務所で利用者と職員が常に触れ合い、生活感を感じながら過ごせるように工夫がなされている。居室の扉や居間の窓を開けて換気にも常に配慮し、居心地良く過ごせるように工夫がなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、洋服ダンスが用意されているが、他の家具やベッドは利用者の使い慣れた物や好みの物が持ち込まれ、落ち着いて過ごせるように工夫がなされている。壁には、利用者と家族の写真が入っている個別の年間カレンダーや誕生日プレゼントの花などが飾られている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。